



柏葉



学校だより 第25号
 令和5年11月 2日(木)
 福島県白河市立東北中学校
 発行責任者 校長 渡邊泰昌
 「自分の未来を切り拓け！」

福島民報新聞掲載 若い世代 (No. 1)

今年もたくさんの生徒の皆さんの作文が、福島民報新聞「みんなのひろば 若い世代」に掲載されました。自分の気持ちを、中学校生活で体験したことや、将来の夢をもとに生き生きと文章で表現していることがとても素晴らしいと思います。

ソフト部の努力忘れない

辺見 虹羽

私は、小学校2年生から中学校3年生の夏まで7年間、ソフトボールを続けました。中学校に入ると同時にソフトボール部に入り、新しい仲間と出会いました。2年半という長いようで短い期間に情熱を注いできました。

そして、3年生の最後の晴れ舞台である中体連県大会では、目標に届かない残念な結果となっていました。負けた直後、本当に悔しくて、今までにないほど泣きました。目標を達成したいということのほかに、私の中では、顧問の先生のために勝ちたいという思いもありました。毎年ソフト部は惜しいところまでいくのに、あと一歩で負けていました。だから、今年こそはと思い、試合に臨みました。目に見える結果を残せず終わってしまったのは、すごく後悔があります。

ですが、この頑張ってきた期間の努力は、絶対に無駄になってないです。頑張ってきたからこそ、悔しいという感情がよく分ると思います。私の中学校生活のソフトボールは決して忘れることのないものになりました。

中学校最後の試合を無失点に

菊池 大翔

僕はサッカー部に入ってから先日、県大会に出場しました。これで2回目の県大会なのですが、僕は緊張して良いプレーをすることができませんでした。今年は中学最後の夏でした。

みんなが支え合ってきた最高のチームです。ベスト4入りを目指して戦いました。試合では1点先制したのですが、3点返されて1対3で負けました。僕は練習の時のような良いプレーを出し切ることができませんでした。3点目の失点は自分のミスがからんで点を取られてしまいました。僕が落ち込んでいた時、チームの仲間が「大丈夫だ」と声をかけてくれました。

最初はどうかと思うような弱小チームだったのに、助け合う最高のチームになったと思います。

十二月に中学校最後の試合があります。先日の悔しい思いをばねに、勝ちたいと思います。最後の試合に向けて十一月から練習が始まります。この前の負けから気持ちを切り替えて頑張りたいです。小学校の頃から続けてきた集大成として無失点にしたいです。

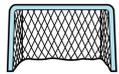
合同チーム、いいスタートを

十文字 耕平

僕はサッカー部に入部しました。部活動では1年生として練習の準備をしたり、先輩がすぐに活動出来るようにしたりする役割です。中体連では自分も選手としてメンバー入りし、予選を突破できました。しかし、県大会では、1回戦敗退。そして、3年生が引退し、僕たちが中心になって活動がスタートしました。

ふだんの練習では、雰囲気がある時も最初はありました。しかし、人数が少ないこともあり、合同チームで試合に出ることになりました。いざ合同チームで練習してみると、コミュニケーションがとれず、上手くできませんでした。

僕たちが中心となり、初めての試合。合同チームとしてコミュニケーションをとる、試合に臨みます。結果を残し、良いスタートにしたいです。



看護師になって人を助けたい

兼子 心優

私の将来の夢は、看護師になることです。小さい頃から変わらず持ち続けている夢です。なりたいと思ったきっかけは、人助けをしたいと考えたからです。小学校低学年のころに、胃腸炎になったことがありました。疲れ果てて病室のベットに横になっていたら、看護師さんが優しく励ましてくださいました。ものすごく心強かったのを覚えています。看護師になりたいと思う気持ちが強くなりました。映画やインターネットで見た医療関係の物語がかっこよくてあこがれたということもあります。

看護師になるのは大変だと思いますが、今から体力をつけて勉強に力を入れ、将来たくさんの人の役に立てるよう頑張りたいです。



